

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立佐倉南高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 285-0808

千葉県佐倉市太田1956

E-mail unesco@sanan.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 259名 女子 327名 合計 586名

幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は「できることからはじめよう」を活動の合言葉に、「今まで実施してきた取組をさらに発展させていく」こと、それを「後世に伝えていくこと」をめざし、ESDの実践を通して、地域で活躍する人材の育成に取り組んだ。

具体的には、学校間・文化交流、ボランティア活動を柱に活動を行ってきた。

①学校間・多文化交流

・特別支援学校との交流 (佐倉南高校に併設されている印旛特別支援学校分校との交流)

対面式 (4月) 文化祭 (9月) 体育祭・いんば祭 (10月)

避難・防災訓練 (7月・12月)

・ユネスコスクール間交流 (成果発表会や和気閑谷高校との交流)

・メロス言語学院との交流

・アルゼンチンギター奏者との交流

本校には、印旛特別支援学校さくら分校が併設されており、学校間の交流が行われている。春には対面式が行われ、体育祭やお互いの文化祭への参加、合同避

難訓練など実施している。また、さくら分校が制作したパンの販売が定期的に行われている。

ユネスコスクール間の交流として、年に一度行われている成果報告会への参加や、他県のユネスコスクールとの交流もあった。今年度の活動の成果を報告し合い、お互いの今後の活動に生かしていくよい機会となった。

メロス言語学院との交流では、外国人学生 40 名（各クラス 8 名ずつ）が来校し交流をした。中国・韓国・台湾・ベトナム・インドネシアなど 8 つの国と地域の学生が来校し、世界の多様性を実感できる時間を過ごすことができた。

また、アルゼンチン出身のギター奏者の方に来校していただき、ギター演奏と吹奏楽とのセッションを行っていただいた。



いんば祭（印旛特別支援学校文化祭）



メロス言語学院との交流

②ボランティア活動

- ・小学校宿泊合宿ボランティア（6月）
- ・介護・福祉施設ボランティア（7月）
- ・地域清掃（1年生10月 2年生1月 3年生6月）
- ・部活動のボランティア・地域行事への参加

ボランティア活動として参加した、小学校宿泊合宿ボランティアでは、希望生徒が公民館に小学生と一緒に宿泊し、サポーターとして活動した。また、介護施設や福祉施設でのボランティアでは、科目「生活産業基礎」選択者や吹奏楽部等が中心となり、補助・手伝いや演奏会を行ったりした。地域でのお祭りには、生徒会役員や吹奏楽部、その他有志で集まった生徒が中心となり、運営補助や出し物を行った。学年単位では、毎年地域清掃を学期に一度実施しており、通学路を中心に清掃を行っている。



時代祭への参加



佐倉グリーンヒル
サマーフェスティバル



清掃ボランティア

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 課外活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心に、国際交流やボランティア活動に学校単位で取り組めるよう指導計画を作成した。基本的に学年単位ではあるが、各種活動を年間計画に盛り込み、学年ごとに連携を図りながら取り組んでいる。指導内容は、生徒の発達に応じ毎年改善しながら取り組んでいる。特に他校との交流においては、ものづくりや発表などの共同活動を取り入れながら、より深い交流が実現できるよう連携を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、生徒会役員が活動の中心となり、校内のリーダー的役割を果たしている。主に1、2年生の生徒会役員が活動しており、2年にわたり継続して携わっている。通常、生徒会役員が呼びかけをし、希望者は各種活動に参加できる体制になっており、生徒主体の活動体制を目指している。生徒会顧問が基本的に彼らの活動をサポートするが、生徒会活動と兼務する形となり、負担が大きく、今後は顧問の配置をどうするかが一つの課題である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、ユネスコスクールとして活動した内容を活動報告としてまとめ、生徒に報告・掲示している。また、成果報告会に参加し、他のユネスコスクールとの情報交換を行って、次年度の活動の質の向上に努めている。これらの活動により、生徒の未来を担う人材としての自覚と自己実現を促したいと考える。しかし、未だ活動の機会が十分とはいえず、今後は校内外での発表や報告の機会を増やしていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校は ESD の推進拠点として、地域との交流を大切にし、開かれた学校づくりに努めた。地域の祭やボランティアに参加し、積極的に関わる姿を示すことで、地域からの理解と協力が得られるようになった。生徒自身も、地域の人々との関わりの中で、自分たちの役割について考え積極的に関わるようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

佐倉市内の各地区との交流を積極的に行っている。また、千葉大学と連携をして、ESD 活動についての研修会や報告会の開催を共同で実施している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内のユネスコスクールとの交流として、岡山県の和気閑谷高校が本校に来校し、学校見学と意見交換会を実施した。今後も連携を深めていきたいと考えている。また、県内のユネスコスクールが集まり、毎年研修会と報告会を実施している。今後は協働で活動する機会を増やしていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校は特別支援学校が併設されており、特別支援学校の生徒との交流の機会が多いのが特徴である。本校とは異なるカリキュラムの下活動しているので、生徒にとっても大変魅力ある交流であると感じている。また、生徒会役員が中心となっていることで、ユネスコスクールとしての活動が、校内のリーダー育成にもつながっている。さまざまな活動を通じて、多くの方と触れ合うことで、多様な考え方に触れ、それが学校運営にも役立っている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度の活動計画として、学校間交流として、特別支援学校との交流と他のユネスコスクールとの交流、言語学校との交流を今後も継続して取り組んでいきたい。また、ボランティア活動として、宿泊合宿ボランティアや介護・福祉施設でのボランティア、地域清掃や地域のイベントでのボランティアを積極的に実施していきたい。来年度は、より多くの生徒が主体的にこれらの活動に関われるよう、校内活動もより活発に行っていきたい。具体的には、他校生の受け入れや校内清掃、ペットボトルキャップの再利用化などに取り組んでいきたい。